

校長先生の部屋だより

哲学ルームだより



この「哲学ルーム」は、生徒、先生の区別なく、共に学校スローガンである「人間を学ぶ」空間です。

今日も前回の続きです。ロボットは人間になれるか。1年生が来てくれました。

A：やっぱりロボットは人間ではないと思います。

—どうして？

A：ロボットはロボットだから、そのロボットが自分のことを人間と言ってもそれは人間ではありません。

—それは同語反復だ。じゃあ、ちょっと質問を変えてみよう。君のお母さんが実はロボットだった、そんな風に告白したらどうする？人間と認める？

A：それって育ての親ってことですよ。

—そうだね。

A：自分のことを人間って言っているんですよ。

—うん。だから人間じゃないって言うと悲しむと思うよ。どうする？お前なんか人間じゃないって言う？君のこと一生懸命育ててくれたんだよ。

(しばらくじっと考えた後)

A：やっぱりロボットだと思います。

—お母さんではあるの？

A：はい。お母さんだけど、人間じゃありません。

—人間じゃないって、これまでと対応が変わるの？突然差別したりとか。

A：そうじゃなくて、先輩がこの間言っていたように、ヒトから生まれたのが人間で、手で作られたのは人間ではないって意味です。

—人格は認めるの？ヒトではないけど、人格は認める？

A：認めます。

—新しい段階に入ったね。じゃあ、人格って何？君はどういう者に人格を認める？この間話したように、ワニみたいな恐ろしい顔をした宇宙人が、最初は怖いと思っていたけど、話は出来るし、気持ちは優しいし、一緒に宇宙の平和を守ろう、なんて言っている。この宇宙人には人格を認めるんだよね。どうしてだろう。・・・時間が来ちゃった。また考えておいてね。

